

15	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="172 136 323 181">課題番号</th> <th data-bbox="323 136 898 181">研究課題名</th> <th data-bbox="898 136 1313 181">研究代表者</th> <th data-bbox="1313 136 1445 181">評価結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="172 181 323 327">16101009</td> <td data-bbox="323 181 898 327">地域研究を基盤としたアフリカ型農村開発に関する総合的研究</td> <td data-bbox="898 181 1313 327">掛谷 誠(京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授)</td> <td data-bbox="1313 181 1445 327">B</td> </tr> </tbody> </table>	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果	16101009	地域研究を基盤としたアフリカ型農村開発に関する総合的研究	掛谷 誠(京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授)	B	<p>(意見等)</p> <p>アフリカ農村の実態と「在来性のポテンシャル」を理解したうえでの開発手法の構築は、援助国側にとって焦眉の課題であり、成果の波及効果は高いと期待される。本研究の現地調査の中で若手研究者を多数養成している点は評価できるし、開発における内発性に重点をおいた研究であるために、地域状況の把握に長時間を要し、全体に研究成果発表の点で遅延をきたしていることも理解できる。しかし、本研究が最終的には「開発計画を立案、実施する」ことを目標にして開始されたにもかかわらず、対象地域における開発実践の構想と手続きが具体的に示されていない点で、研究の進捗はやや遅れていると言わざるをえない。</p> <p>水力製粉機や養魚池等の導入など本研究による外来の刺激が住民に受容されていった過程での問題点が十分に記述・分析されているとはいいがたい。</p> <p>「在来性のポテンシャル」は地域の社会・自然環境、民族間の関係等に応じて、多様な現れかたをする以上、所与のポジティブな可能性としてだけではなく、ときには持続的開発にとってネガティブな側面もありうることで、市場経済が浸透する過程で「在来性」も将来は一定不変ではありえないことに留意すべきである。この点で、研究の進行において各地での調査実績をふまえながら、「在来性」「シェアリング」「平準化の機構」といった概念を再考し鍛え直し、精緻化する姿勢が必要であろう。</p> <p>これまでの成果公表が不揃いであるため、対象地域の全体にわたって問題点の抽出と原因の探求が行われたのかどうか不明であるが、今後の研究において予定どおり地域の実態に適合した開発計画を立案・実施するためには、その仕掛けを十分に考えておく必要がある。現地の住民・研究者・実務者と協働しながら住民にとっての有意義な開発実践に取り組むためには、重点実践地域を数カ所に限定し、研究参加者の配置を見直し、研究代表者・分担者と若手研究者との連携をさらに円滑にするなど、分散から集約に向けて研究体制を組み替える必要があるだろう。</p> <p>持続的開発を推進するためには、全体に進捗が遅いとはいえ本研究に期待される成果の意義はきわめて高い。本研究のような開発を支援する外部者がとるべき選択肢（住民の内発的な計画に任せて、補助的な役割もしくは完全な不干渉に徹することも含めて）について、またどの分野にどの局面で、どのような現地の人間関係を通して開発実践を働きかけるか等について、実証的、帰納的、体系的なモデルを提示することが期待される。</p>
課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果							
16101009	地域研究を基盤としたアフリカ型農村開発に関する総合的研究	掛谷 誠(京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授)	B							
16	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="172 1294 323 1339">課題番号</th> <th data-bbox="323 1294 898 1339">研究課題名</th> <th data-bbox="898 1294 1313 1339">研究代表者</th> <th data-bbox="1313 1294 1445 1339">評価結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="172 1339 323 1440">16101010</td> <td data-bbox="323 1339 898 1440">ニューエコノミーと労働・家族・国家－日米欧の比較ジェンダー分析－</td> <td data-bbox="898 1339 1313 1440">大沢 真理(東京大学・社会科学研究所・教授)</td> <td data-bbox="1313 1339 1445 1440">A</td> </tr> </tbody> </table>	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果	16101010	ニューエコノミーと労働・家族・国家－日米欧の比較ジェンダー分析－	大沢 真理(東京大学・社会科学研究所・教授)	A	<p>(意見等)</p> <p>全体として重要な研究であり、海外で多くの発表機会をもち、英語と日本語の2つの言語で論文を刊行するなど、活発に成果を発表している。また、この分野における海外の中核的な研究者との協力関係や共同研究体制も充実している。内容面でも比較福祉レジームのジェンダー分析に雇用を組み込み、あらたな理論枠組みから比較分析を行っていて、画期的な成果をあげている。学術面のみならず、政策提言に関しても大きな成果が期待できる。平成17年の秋以降、「ケアワーク発展の社会的国際比較」に関する大規模な調査が外部委託の形でアメリカ、イギリス、ドイツで実施されている。調査の進捗状況は概ね良好だが、一部、遅れも見られる。多額の経費を支出しているため、調査の実施状況について慎重に監督するとともに、その結果が18年度以降に報告書、論文などの形で具体的に提示されることを期待する。</p>
課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果							
16101010	ニューエコノミーと労働・家族・国家－日米欧の比較ジェンダー分析－	大沢 真理(東京大学・社会科学研究所・教授)	A							